

郷土摂津

第78号

平成16年10月1日

いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

Tel(06)6383-1111 (072)638-0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>摂津市の
石造文化財板碑型二尊仏
灯籠

第7回

■板碑型二尊仏（三島3丁目） 阿弥陀仏の二尊仏です。石材は花崗岩ですが、摩滅が激しく、二尊仏であることはかろうじて確認できます。頂部は著しく欠損していますが、切込部は三帯の額を有し、左右平行に切込線が入り、上段から額までは段状になって、仏より前に額が張り出すという江戸時代初期の特徴が確認できます。二尊の阿弥陀仏は、龕（ずし）部の中に納まり、左側の阿弥陀仏は細い形状を示します。顔面は摩滅していますが、脇からのびた腕は胸で定印を構えるように小さく結んでいます。右側のものは、摩滅が激しいですが、わずかに腕の定印を結ぶのが認められます。全高は55センチ、幅23センチ。

■灯籠（三島3丁目） 味舌天満宮門前の神前型の灯籠です。形状から見ると、宝珠は球状に近いものになり、それを受ける請花も大胆に皿のような花卉になっています。竿部は軒の先が極端なまでに開きそり返っています。また火袋は左右を日月、反面を灯窓にしています。中台は、竿部も極端なまでに節部を細めているのが特徴的です。また左右の灯籠の竿部の銘文は共通していません。



灯籠(参道から境内へ向い右)



板碑型二尊仏

〔銘文・右〕
〔正〕天満宮
〔左〕蜂熊組
先達 七良兵衛
小先達 東二郎

〔灯籠・左〕
〔右〕座子中
政右衛門
七良兵衛
政右衛門
東二郎

〔正〕天満宮
〔左〕社僧 秀尊法印代
〔裏〕明和乙酉年九月吉日

電子出版物のお知らせ

パソコンで見る



摂津市の歴史

〔ダウンロードの方法〕

- 1 摂津市ホームページを開きます。
<http://www.city.settsu.osaka.jp/>
- 2 担当各課のページをクリック
- 3 生涯学習課の項をクリック
- 4 刊行物の項をクリック

摂津市域の歴史と昔の暮らし

《摂津市の歴史概説》

古代からちょっと昔まで、摂津市の歴史や昔の生活を多数の写真や図を用いて説明しています。

摂津歴史スポット

《文化財マップ》

摂津市に住む人も訪れる人も、巡って、感じて、考えて摂津市の歴史を再発見するためにこのマップを作成しました。

摂津市の民具とくらし

《民具とくらし》

摂津市域の民具・くらしを調査した冊子です。農業が機械化される以前のくらしを中心にテーマごとにまとめたものです。

摂津市域昔の暮らし

《平成8年から9年の聞き取り調査》

昔から摂津市域で暮らしてこられた60歳代から80歳代の方々に、昔の暮らしの様子を聞かせていただいたお話をまとめました。

電子出版物とは 印刷物をパソコン上で読めるようにしたもので、文字情報のほか図表や写真がレイアウトを崩すことなくそのまま再現されるものです。これらの刊行物はPDFと呼ばれる形式で、文書を見るためのソフト「Acrobat Reader・アクロバットリーダー」を用いて、パソコンにより誰でも見る事ができます。

石碑・顕彰札の紹介

三宅城落城と防風庵

戦乱の続いた時代、摂津市域には、三宅城（三宅）、黒丸城（鳥飼中）、一津屋城（一津屋）という三つの城があったといわれています。

三宅氏は、戦国時代を中心とした百年あまりの間、歴史に登場する国人（その地域一帯を実力で支配する地侍）です。通常、国人はいずれかの守護大名の家臣となり、手下の足軽（雑兵）を率いて、戦争の実働部隊となります。

「三宅城落城記」という記録によると、三宅国村・長清の兄弟は、複雑に推移する戦況の中で、主従関係を次々と変えながら生き延びます。本拠とした三宅城が落城するとき、国村と長清は自害しますが、国村の子ども達は難を逃れ、出家した長女は康阿比丘尼と名乗り、防風庵という草庵をつくって暮らしたと述べられています。現在の三宅小学校の南方が防風庵の跡とされています。

摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市千里丘東1丁目16

【設置年度】平成12年度



←設置状況

第41回 埋もれた摂津市の歴史

淀川から土器が出土

先月号では、昭和49年の淀川改修工事において、多量の遺物が採集されたことを紹介しました。またローリングという摩滅から淀川の堤防上に弥生時代の集落があった可能性を紹介しました。この時の調査では弥生時代だけでなく各時代の土器など遺物が多数採集されています。古墳時代は須恵器の坏類が比較的多く、大半は古墳時代中期以降のものです。古代だけでなく中世・近世の遺物も採集されています。土師質土器では、内面に暗文の入る奈良時代の坏、平安時代の灯明皿、鎌倉時代の中型皿、鎌倉～室町時代の灯明皿などが採集されています。須恵質土器では、大型の壺・甕の破片が多く大半は7～8世紀のものです。瓦器類は鎌倉時代初期のものが多く碗の破片が大半です。黒色土器類も若干採集されています。陶磁器類では平安時代の緑釉や青磁、白磁が採集されています。また近世の茶碗、湯呑、急須、猪口なども含まれています。とくに淀川三十石船で利用された伊万里焼のくらわんか茶碗も見られます。他の歴史時代の遺物としては、土錘、竈型土器、羽釜、土製品、牛骨などの骨類、和同開珎など銭貨、刀剣類、古瓦などが採集されました。



和同開珎